

北海道立北方民族博物館・平成17年度企画展

イヌイト・アートの世界

～光洋マテリアカ寄贈資料展～



2006.2.4 (土)

▶ 3.26 (日)



◆開館時間 / 9:30 ～ 16:30 ◆休館日 / 月曜日 ◆観覧無料 (企画展)

《関連行事》2月4日(土)

13:30 ～ 講演会「イヌイト・アート：極北からのおくりもの」(道民カレッジ連携講座1単位)

岸上 伸啓 氏 (国立民族学博物館教授)

15:00 ～ 展示解説会 渡部 裕 (当館学芸課長) *参加は無料です。事前にお申し込みください。

協力：光洋マテリアカ株式会社、岸上伸啓氏、大村敬一氏、カナダ大使館

*常設展示観覧料：一般 450 (360) 円、大学生 150 (120) 円 () 内は10人以上の場合

〒093-0042 網走市字潮見309-1 (天都山・道立オホーツク公園内)

◆交通：網走バス天都山線・北方民族博物館前 (駅から約15分)。地図は裏面をご覧ください。



北海道立北方民族博物館
Hokkaido Museum of Northern Peoples

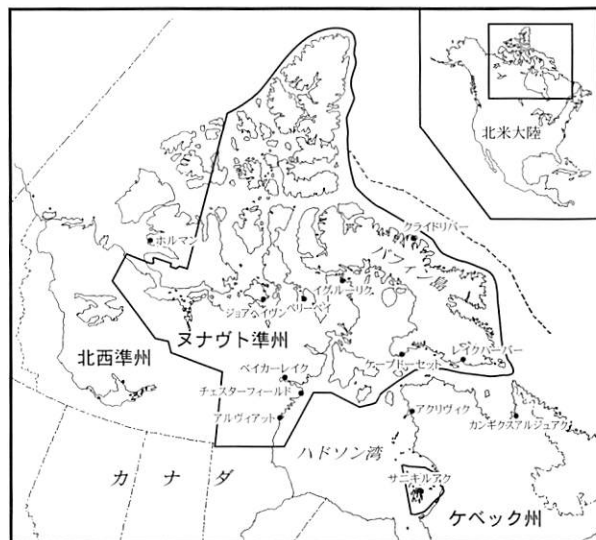
TEL 0152-45-3888 / FAX 0152-45-3889

<http://hoppohm.org>

企画展 イヌイト・アートの世界 ～光洋マテリア寄贈資料展～

本展は、平成16年度に光洋マテリア株式会社（名古屋市）から当館に寄贈されたイヌイトの版画と彫刻など（計70点）を紹介するものです。このコレクションは、同社の創業者である名誉会長の吉田三栄吉氏がカナダを訪れた際に、イヌイト・アートの素朴さや自然との共生という精神性に感動し、1997～99年に収集した作品です。同社では作家の経歴などの情報収集に努め、ギャラリーでの展示等を行ってきました。しかし、より多くの人の目に触れる機会を増やし、作品の素晴らしさを一般に普及したいという意図から、北方民族博物館に寄贈されました。

当館では、320点あまりのイヌイト・アート作品を収蔵していますが、なかでも光洋マテリアの資料は比較的新しいものが多く、イヌイト・アートの現状を反映しており、作家の経歴等が明らかなコレクションです。今回は、題材別に紹介し、イヌイトのくらしや世界観をご覧いただきたいと思います。



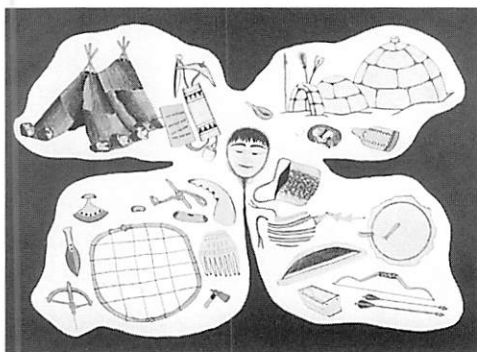
イヌイト・アートの主な制作地

<イヌイトとは>

イヌイト（イヌイットと表記されることもある）は、エスキモーと呼ばれる人びとのうち、特にカナダに住む人たちの自称（「人びと」の意・複数形）です。「エスキモー」はシベリア東部からアラスカ、カナダ、グリーンランドといった極北地域の類似した環境に住み、ほぼ同じ言葉話す人びとを指す総称として今でも使われていますが、カナダでは「エスキモー」が他の民族からの呼び方で差別的であるとの理由から、1970年代以降「イヌイト」が用いられるようになりました。

イヌイト・アートの歴史

カナダ極北部にくらすイヌイトの間では、20世紀前半まで狩猟や漁労を柱とした伝統的な生活が営まれていました。しかし、第二次世界大戦後、定住化や学校教育の普及などにより、その文化は急激に変化しました。



版画「祖先の道具」 M.Okheena 作

イヌイトは古くから、狩猟や儀礼の道具などに精巧な彫刻を施していました。1940年代末に、トロント出身の芸術家ジェームズ・ヒューストンはイヌイトの彫刻に商品価値を見出し、展覧会などを通じて市場に売り出すことに成功しました。イヌイトにとって彫刻を作ることは、それまでの毛皮交易に代わって収入を得る手段の一つとなり、短期間のうちに極北の多くの村で制作が行われるようになりました。素材は、オイル・ランプに用いられてきた滑石（ソープ・ストーン）が多く、動物の骨・角・牙なども使われます。主な題材は日常生活や説話の中の人物・動物像などですが、複雑なモチーフや象徴性の高い作品も増えています。



彫刻用の石を整形する男性／1986年ケベック州アクリヴィックにて岸上伸啓氏撮影

版画は1950年代に制作が始められ、彫刻とならんでカナダの「イヌイト・アート」を代表するものとなっています。指導にあたったヒューストンは1958-59年来日、平塚運一氏の下で版画技術を学び、和紙を用い、落款風のスタンプを押し、浮世絵の制作システムと同様に原画・彫刻・刷りの工程を分業とする方法を確立させました。彫刻の題材同様に、当初はかつての生活を回顧するような素朴な描写のものが多くありましたが、次第に世界観などを豊かに表現した芸術的な作品が増えてきました。

イヌイト・アートには彫刻、版画・絵画、アププリケや手織りのタペストリーなどがあります。これらは美術市場でも評価を得ており、経済的にも精神的にもイヌイトの生活を大きく変えたと考えられています。

北海道立北方民族博物館 Hokkaido Museum of Northern Peoples

〒093-0042 網走市字潮見309-1（天都山・道立オホーツク公園内）
TEL 0152-45-3888 / FAX 0152-45-3889 <http://hoppohm.org>

写真（表） 背景：カナダ極北地域の夏の海／撮影・大村敬一氏、上段左から「作品名」作者（以下同）・彫刻「踊る人」Esa Qillaq、版画「太陽と月」Ruth Annaqtuusi、版画「多くの脚をもつハヤブサ」Marjorie Lisa、彫刻「漁する人」Temela Ikkiidluak、版画「ハンターを脅かすセイウチ」Napachie Pootoogoo、版画「キヴィックは邪悪な女につばをかける」Janet Kigusiuq、彫刻「カリブーの変身」Elliyah Michael

